## 地域総力戦の観光まちおこし

NPO 法人頴娃おこそ会

**■頴娃町と活動の概要**

薩摩半島南端の人口約 13,000 人の町。数年前までは観光面では知名度なく、指宿・知覧の通過地に過ぎなかった。2007 年末の知覧、川辺との合併による南九州市発足や釜蓋神社の認知向上、タツノオトシゴ養殖場誕生などをきっかけに観光誘致の芽が出始め、地元に存在していた NPO 法人・頴娃おこそ会が中核となり、まちおこし活動を推進。昨今、町内にある釜蓋神社や番所鼻公園は週末には一日 1,000 人を超える来訪者を迎える観光スポットとなった。

**＊NPO 法人頴娃おこそ会**

2007 年に任意団体より NPO 化。前身は商工会のまちおこし部会。農商工の枠にとらわれず「いつまでも住みたい魅力あるまち」をつくることを理念に活動。会員約 40 名。

**① 観光スポットの整備** ～観光通過地からの脱却～

・タツノオトシゴハウスの開業を機に、竜のおし子吉鐘建立など番所鼻公園の魅力向上に励む。
・隣接する釜蓋神社とも連携した統一マップや看板作成、イベント開催など。来訪者増加に寄与。
・来訪者の町内周遊誘導を目指し、大野岳を組み入れた観光ルートづくりに取り組む。

**② 点から線、面への広がり** ～頴娃全体に観光まちおこし機運を～

・おこそ会観光プロジェクトチームの若手有志による観光散策マップ“えい日和”製作。2012 年初版、翌年、翌々年にも改訂版発行。

・大野岳での活動に取り組む茶農家グループ“茶寿会”と連携した諸活動。積極的なメディア活用策と県観光行政の支援もあり、海外ツアー来訪なども始まっている。
・市・県と連携した県景観整備事業の誘致活動。番所鼻公園（遊歩道、展望デッキ、トレイ）、釜蓋神社（駐車場、トイレ、展望広場）、大野岳（茶寿階段、駐車場、トイレ）、および番所鼻と釜蓋を結ぶ番釜海岸遊歩道である頴娃シーホーウォークの整備などが実現した。
・番所鼻公園にて地域の手作りイベントである“ばんどころ絶景祭り”を開催。第 2 回目の 2013 年は 3,300 人の来訪と大きな賑わい。

**③ 観光起点の地域づくり活動へ** ～地域が観光の力を利用する～

・大野岳では茶農家の活動が活性化。頴娃観光協会でも“観光と農業の連携”を長期目標に据えた。
・おこそ会有志のボランティア作業から始まった番釜海岸の道づくりは県事業に昇格し、“頴娃シーホーウォーク”として遊歩道が完成。自然・環境発信の場としても期待。
・かつて町内随一の繁華街だった石垣でもまち歩きコースづくりなど有志が活動開始。解体が危ぶまれていた築 100 年超の古民家保存整備活動も動き出す。

・いぶたま号枕崎延伸では沿線自治体と民間が連携。おこそ会も頴娃区間を担当し試験運行成功に繋がった。今後南薩各自治体の広域連携強化が期待される。

**④ まちおこし活動で大切なこと**

・まちおこしとは連携なり：地域内連携、周辺地区との連携で相乗効果を生む。
・行政とメディアを客と思うべし：観光 PR 活動では行政とメディアが入口と理解する。
・ビジネスあってのまちおこし：　ボランティアでは続かない。=最大の地域貢献は売ること・ビジネスを創ること
・持続可能な取り組みを：金を生むか？　地域の強みか？喜ばれているか？楽しいか？

メモ